

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月13日
【四半期会計期間】	第32期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）
【会社名】	オーウイル株式会社
【英訳名】	O'will Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 小口 英器
【本店の所在の場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理本部長 粟野 恵介
【最寄りの連絡場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理本部長 粟野 恵介
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第31期 第2四半期連結 累計期間	第32期 第2四半期連結 累計期間	第31期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	14,742,282	16,220,856	28,121,963
経常利益 (千円)	211,376	304,542	331,336
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	144,904	218,146	202,670
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	132,060	205,560	270,764
純資産額 (千円)	1,984,625	2,234,395	2,123,329
総資産額 (千円)	8,780,599	12,053,491	8,709,222
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	46.00	69.26	64.34
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	22.1	18.2	23.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	20,240	343,949	291,592
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	7,105	14,568	15,870
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	31,187	197,687	158,835
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,298,145	1,868,444	1,735,586

回次	第31期 第2四半期連結 会計期間	第32期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	19.22	28.77

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善や各種政策の効果もあって緩やかな回復基調が続いているものの、海外経済の不確実性や個人消費の動向など景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品飲料業界におきましては、少子高齢化による消費スタイルの多様化や消費者の健康管理を訴求する新商品開発が活発化しております。また、食の安心・安全に対する消費者の社会的関心は引き続き高く、品質管理体制のより一層の強化が求められているなど、事業環境は厳しい状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、「お客様に十分ご満足のゆく商品・サービスの提供」を品質方針として、安心かつ安定的な供給体制並びに品質管理体制を維持・強化するとともに、付加価値の高い新規商品の提案を積極的に行い、取扱品目の増加及び取引先の拡大に努めてまいりました。香料やエキスなどの食品副原料の販売数量が減少したものの、乳及び乳製品、茶類や果汁等の農産物同加工品の販売数量が増加したことなどにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は16,220,856千円（前年同期比10.0%増）となりました。販売活動にともなう諸経費などの販売管理費は増加しましたが、前年同期に比べ売上高総利益率が上昇したことから、営業利益は314,418千円（前年同期比45.9%増）、経常利益は304,542千円（前年同期比44.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は218,146千円（前年同期比50.5%増）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

#### <卸売事業>

飲料市場においては、飲料メーカー各社、多様化した消費者ニーズに応えるため、重点ブランドの強化や新たな付加価値を備えた商品の開発を推し進めておりますが、小売優位の情勢や原材料高騰もあり、厳しい経営環境が続いております。

このような状況下、当社グループは取引先の多様なニーズに対応すべく、国内外から安全で安心な原材料・資材を確保し、安定供給体制の維持に努め、取引先の拡大と利益率改善を図ってまいりました。香料や乳化剤などの食品副原料や粉乳調整品などの乳製品の販売数量が減少したものの、業務用殺菌乳の販売数量が増加し、烏龍茶をはじめとする茶類や野菜飲料の原料である果汁などの農産物同加工品の販売が好調に推移いたしました。

この結果、売上高は15,813,693千円（前年同期比10.1%増）となりました。

#### <製造販売事業>

美味しさと素材にこだわった高品質で体にやさしいアイスクリームの開発に注力し、製造技術の向上、品質管理の強化に努め、取引先のニーズに合った商品を提供してまいりました。個食用カップアイスの販売が増加したものの、業務用バルクアイスの販売数量が減少し低調に推移いたしました。

この結果、売上高は375,550千円（前年同期比15.2%減）となりました。

#### <その他>

その他においては、F C事業がありますが、東京大手町地区にてコンビニエンスストアを4店舗経営しております。同地区の就労人口の変動による影響があるものの、SQCの向上や店舗運営の効率化に努めております。

この結果、売上高は397,795千円（前年同期比0.3%増）となりました。

（注）セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

## (2) 財政状態の分析

### 資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ3,330,182千円増加し、10,834,920千円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金、商品及び製品の増加によるものであります。また、当第2四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ14,086千円増加し、1,218,571千円となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて3,344,269千円増加し、12,053,491千円となりました。

### 負債の状況

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ3,310,558千円増加し、8,567,287千円となりました。主な要因は、買掛金及び未払金の増加によるものであります。また、当第2四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ77,355千円減少し、1,251,808千円となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債は前連結会計年度末に比べ3,233,202千円増加し、9,819,095千円となりました。

### 純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ111,066千円増加し、2,234,395千円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ132,858千円増加し、1,868,444千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果増加した資金は、343,949千円（前年同期は20,240千円の減少）となりました。これは主に仕入債務の増加によるものであります。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果減少した資金は、14,568千円（前年同期は7,105千円の増加）となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果減少した資金は、197,687千円（前年同期は31,187千円の増加）となりました。これは主に長期借入れによる返済によるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

記載すべき事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,150,000	3,150,000	東京証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限 定のない当社にお ける標準となる株 式であり、単元株 式数は100株であ ります。
計	3,150,000	3,150,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	3,150,000	-	363,387	-	288,387

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社ピアンナ	東京都千代田区大手町一丁目6番1号	460,000	14.60
グリーンコア株式会社	東京都渋谷区富ヶ谷一丁目14番9号	300,000	9.52
オーウイル従業員持株会	東京都港区北青山一丁目2番3号	113,000	3.59
鈴木 良一	愛知県豊橋市	100,700	3.20
小口 英器	東京都港区	90,000	2.86
株式会社伊藤園	東京都渋谷区本町三丁目47番10号	90,000	2.86
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	69,700	2.21
青柿 年英	千葉県柏市	50,000	1.59
加賀電子株式会社	東京都千代田区神田松永町20	44,000	1.40
小西 啓之	千葉県船橋市	41,200	1.31
計	-	1,358,600	43.13

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,148,500	31,485	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 1,300	-	-
発行済株式総数	3,150,000	-	-
総株主の議決権	-	31,485	-

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
オーウイル株	東京都港区北青山一丁目 2番3号	200	-	200	0.01
計	-	200	-	200	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,735,586	1,868,444
受取手形及び売掛金	3,883,846	6,704,638
商品及び製品	1,146,967	1,391,545
未着商品	394,392	489,681
原材料及び貯蔵品	25,363	25,654
未収入金	253,124	268,198
繰延税金資産	22,605	38,025
その他	47,150	56,132
貸倒引当金	4,300	7,400
流動資産合計	7,504,737	10,834,920
固定資産		
有形固定資産	387,786	430,989
無形固定資産	53,596	39,389
投資その他の資産	763,101	748,192
固定資産合計	1,204,484	1,218,571
資産合計	8,709,222	12,053,491
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,812,716	6,879,454
1年内返済予定の長期借入金	747,692	742,320
未払金	540,761	671,658
未払法人税等	59,183	115,434
賞与引当金	35,778	43,494
その他	60,596	114,926
流動負債合計	5,256,729	8,567,287
固定負債		
長期借入金	1,194,168	1,107,994
資産除去債務	4,435	4,474
その他	130,558	139,339
固定負債合計	1,329,163	1,251,808
負債合計	6,585,893	9,819,095
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	363,387	363,387
資本剰余金	292,475	292,475
利益剰余金	1,213,265	1,336,918
自己株式	129	129
株主資本合計	1,868,998	1,992,651
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	165,622	155,696
繰延ヘッジ損益	3,244	3,170
為替換算調整勘定	35,790	36,771
その他の包括利益累計額合計	204,656	195,637
非支配株主持分	49,674	46,106
純資産合計	2,123,329	2,234,395
負債純資産合計	8,709,222	12,053,491

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	14,742,282	16,220,856
売上原価	13,433,128	14,746,444
売上総利益	1,309,154	1,474,411
販売費及び一般管理費	1,093,688	1,159,993
営業利益	215,465	314,418
営業外収益		
受取配当金	3,730	3,792
受取手数料	3,222	3,222
受取補償金	2,131	1,445
その他	661	671
営業外収益合計	9,745	9,132
営業外費用		
支払利息	4,759	5,018
為替差損	6,213	5,201
支払補償費	2,352	3,893
その他	510	4,894
営業外費用合計	13,834	19,008
経常利益	211,376	304,542
税金等調整前四半期純利益	211,376	304,542
法人税、住民税及び事業税	55,342	104,289
法人税等調整額	5,413	14,143
法人税等合計	60,755	90,146
四半期純利益	150,620	214,396
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	5,716	3,750
親会社株主に帰属する四半期純利益	144,904	218,146

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	150,620	214,396
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,466	9,925
繰延ヘッジ損益	5,114	74
為替換算調整勘定	26,141	1,163
その他の包括利益合計	18,559	8,836
四半期包括利益	132,060	205,560
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	136,019	209,127
非支配株主に係る四半期包括利益	3,958	3,567

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	211,376	304,542
減価償却費	37,138	44,233
貸倒引当金の増減額(は減少)	100	3,100
賞与引当金の増減額(は減少)	7,363	7,715
受取利息及び受取配当金	3,816	4,001
支払利息	4,759	5,018
為替差損益(は益)	10,253	516
売上債権の増減額(は増加)	1,123,753	2,819,399
たな卸資産の増減額(は増加)	27,221	340,040
未収入金の増減額(は増加)	85,731	15,065
前渡金の増減額(は増加)	1,220	704
仕入債務の増減額(は減少)	820,850	3,065,599
未払金の増減額(は減少)	230,849	119,447
未払消費税等の増減額(は減少)	302	21,438
前受金の増減額(は減少)	3,099	2,813
その他	20,348	3,042
小計	59,637	391,138
利息及び配当金の受取額	3,816	4,001
利息の支払額	4,771	5,045
法人税等の支払額	78,923	46,145
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,240	343,949
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	3,975	14,908
無形固定資産の取得による支出	10,000	-
差入保証金の差入による支出	-	160
差入保証金の回収による収入	21,080	500
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,105	14,568
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	500,000	300,000
長期借入金の返済による支出	321,050	391,546
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	48,854	-
リース債務の返済による支出	4,473	11,903
配当金の支払額	94,433	94,238
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,187	197,687
現金及び現金同等物に係る換算差額	20,262	1,164
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,209	132,858
現金及び現金同等物の期首残高	1,300,355	1,735,586
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,298,145	1,868,444

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
賃金給料及び諸手当	421,268千円	429,326千円
賞与引当金繰入額	40,684	43,494
運賃	191,093	217,238

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	1,298,145千円	1,868,444千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	1,298,145	1,868,444

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	94,493	30	平成28年3月31日	平成28年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	94,493	30	平成29年3月31日	平成29年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,242,375	103,304	14,345,679	396,602	14,742,282	-	14,742,282
セグメント間の内部 売上高又は振替高	116,041	339,606	455,648	-	455,648	455,648	-
計	14,358,417	442,910	14,801,327	396,602	15,197,930	455,648	14,742,282
セグメント利益	172,008	38,518	210,527	1,839	212,366	3,099	215,465

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額3,099千円は、セグメント間取引消去3,099千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,717,367	105,694	15,823,061	397,795	16,220,856	-	16,220,856
セグメント間の内部 売上高又は振替高	96,326	269,855	366,182	-	366,182	366,182	-
計	15,813,693	375,550	16,189,243	397,795	16,587,038	366,182	16,220,856
セグメント利益	298,885	15,198	314,083	2,558	316,641	2,223	314,418

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額2,223千円は、セグメント間取引消去2,223千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	46円00銭	69円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	144,904	218,146
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額(千円)	144,904	218,146
普通株式の期中平均株式数(株)	3,149,789	3,149,789

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりませ  
 ん。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月13日

オーウイル株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 寺田 昭仁 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秋田 英明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオーウイル株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オーウイル株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。